

連絡船の旅



青函船舶鉄道管理局





▼日本最初のタービン船 比羅夫丸



▼連絡船貨車航送 荷物を積んだ貨車をそのまま運びます。



○青函連絡船・自動車・バイク・自転車航送のご案内



○乗用車・バイク・自転車は豪華で安全な国鉄連絡船で!!

※石狩丸、松山丸はバイク・自転車も航送いたします。

○自動車航送料金 (運転者1名分の運賃を含む)

自動車の長さ	3メートル まで	4メートル まで	5メートル まで	5.3メートル まで
料 金	9,700	12,900	16,200	21,100

※ 自動車の長さ5.3メートル、幅2.1メートル、高さ1.95メートル、重さ2.5トンまで取扱いたします。

※ 往復券同時購入のときは、復路について料金を1割引をいたします。

○バイク・自転車航送料金

バイク	125cc 以下	1,100
バイク	125ccを こえるもの	2,200
自転車		700

※バイク・自転車は直接カーフェリー駐車場までおいで下さい。

☆ 快適な連絡船の旅

- 津軽海峡の眺めはすばらしく、連絡船が海峡のなかばにさしかかるところ、ひょうきん者のいるかの群があらわれるなどして船旅を一層たのしいものにします。
- 客室は椅子席とすわり席に分かれていて、スペースも広く、ゆったりした船旅をお約束します。
- 窓の大きさもグンと広がって、展開するすばらしい海の風光を心ゆくまでごらんになれます。明るい船内には、冷暖房や温水もとのえられています。
- 座席指定席は、リクライニングシートで65度までかたむいて楽に休むことができます。ベッドルーム、ロビー、食堂、喫茶室、シャワールームなどもあり、豪華なホテルを思わせるデラックスムードがいっぱいです。

▼ 楽しい船の旅



▼ 船内喫茶「サロン海峡」



ベッド、ソファー、洗面設備も完備され、長旅をいやすのに最適です。



一人掛のリクライニングシート、背が65度倒れますので寝台替りにも十分です。



グリーン船室ロビーはゴージャスな雰囲気、ゆっくりくつろげます。



普通船室後部大広間は各種催し、会合等に利用できます。

☆連絡船のシンボルマーク

- 昭和52年3月に青函航路開設70年を記念して、みなさんの連絡船として親しんでいただくためにシンボルマークをつくりました。
- マークは津軽海峡の人気者、いかと救命フイを組合せ、それに船名にちなんだ特長をいかしてつくっており、みなさんの楽しい船旅を願っております。



船名	船名にちなんだ特長
八甲田丸	八甲田山脈と水蓮沼
大雪丸	大雪の熊
摩周丸	神秘の湖摩周湖
羊蹄丸	蝦夷富士・羊蹄山
十和田丸	湖面輝やく十和田湖
石狩丸	石狩川の鮭
桧山丸	江差のかめめ
空知丸	初夏の香りすずらん

☆連絡船の豆知識

- 連絡船の大きさは8,000トン級の大型船です。
- 函館～青森間の距離は61海里（1海里は1,852メートル）で約113キロメートルあります。
- 連絡船の速力は18.2ノット（1ノットは1時間に1海里の速さ）で1時間に約33キロメートル進みます。
- 連絡船は函館～青森間を3時間50分のスピードで航海します。
- 現在、活躍している客貨船は7隻（八甲田丸、大雪丸、摩周丸、羊蹄丸、十和田丸、石狩丸、桧山丸）あります。
- 貨物船は1隻（空知丸）あります。
- 連絡船の燃料は軽油で1航海（函館～青森）に6,600リットルつかいます。石油かん（18リットル）にして約366かんて、ご家庭で暖房のため1年間に100かんつかうとして3年半分にあたります。
- お客さまはグリーン客室が316名、普通客室が970名で全部で1,286名、自動車は12台積むことができます。（石狩丸、桧山丸は普通客室のみ650名、自動車は20台の他、バイク・自転車も航送しています）

■連絡船の新しいしくみ

連絡船は前方の見えない濃霧や、はげしい吹雪の時には、いろいろのすぐれた機械が自動的に船の位置や、他の船の位置を知って安全に航海するようになっています。

お客様に安心して楽しい旅をしていただくための新しいしくみがたくさんあります。

☆推進プロペラ

船橋からプロペラの翼を自由に変えることができるので、速さを変えたり、前進後進が自由に行なえます。横に進めるプロペラ（バウスラスタ）もあって、岸壁に着いたり離れたりするのに大へん役立ちます。

☆自動制御

いろいろの機械や計器の記録、異状、警報などが自動的に行なわれるので、異状があればすぐわかります。いろいろの記録は、ボタンをおしたただけでわかります。エンジンは制御スタンドでワンマンコントロールができます。

☆レーダー

反射する電波をとらえて、陸地やほかの船の位置などをみきわめることができるので、くらやみでも、霧の中でも、安全に走ることがができます。

☆防火設備

連絡船のなかには多くの火災警報装置がついていて、人のいないところでも自動的にわかるようになっています。消火しにくいところは天井などから自動的に水が出て消火します。

☆救命設備

船体は13の区画にくぎられていて、ある部分に水が入っても沈まないようにつくられています。ゴムの救命ボートは自動的に海面にすべりおろされ、すべり台のようなシューターから全員安全に乗れるように用意されています。

